

奄美ふるさと100人応援団 2015

全国で活躍する奄美に縁のある人物
島と生き、島を繋ぐ応援団の素顔に迫ります

名鑑



私たちは応援します。奄美を！



島料理で島の心を伝えたい

土濱あかり

〔奄美琉球居酒屋 土濱笑店 店主〕

●これまでの取組み・実績

高校卒業後、上京。1年間アルバイトで大学資金を貯め、東京農業大学醸造学科（短期）に入学。奨学金とアルバイトで生計を立てながら通う。在学中に飲食店経営を志し、卒業後は飲食店でアルバイトをしながらノウハウの習得・出店資金の貯金・実家への仕送りを始める。24歳で結婚し、一緒に目指してきた夫と共に2009年、29



出身地：奄美大島笠利町土盛
生年月日：昭和11年9月30日（満77歳）
現住所：千葉県柏市大井808-6
TEL：04-7191-1589
FAX：04-7191-0835

●これまでの取組み・実績

昭和61年に㈱サカリを設立し、教育用地図や地球儀の出版・製作をしてきましたが、平成10年からは奄美特産品も取扱うようになり、現在もJ-A奄美の代理店として「かけるまきび酢」を全国に普及展開中。また奄美特産品の黒糖や、じょうひ餅、奄美かりんとう、もずく、アオサなどを関東地区を中心に大手スーパーや生協へ納品しています。

●生まれたシマに対する思い

奄美市笠利町土盛のさとうきび生産農家で生まれ、奄美の食文化の優秀さを身を持って体験しています。自然の宝庫から生まれた食文化を、都会の人に1人でも多く採用してもらおう努力を続けてまいります。

●シマとつながるきっかけ

私は新聞配達をしながら予備校に通い中央大学に入学しましたが、その大学時代にお世話になったのが登山学生寮。奄美市出身の登山俊彦先生が私財を払い、奄美出身の学生たちに無料で部屋を提供するために建てたもので、この寮のお陰で私は社会人として活躍できました。恩師の奄美を思う気持ちを少しでも受け継いでいく気持ちで、今後も奄美島おこしの手伝いを続けてまいります。

●夢への哲学

奄美の食材の中には、改良を加えれば都会へ出せる食材があります。スーパーなどへの導入条件を満たすべく現地メーカーを指導しながら、一品でも多く定番商品として販売してまいります。

●今後の取組み、予定など

弊社は全国菓子卸協同組合加盟社です。毎年7月に全国の大手菓子卸会社約20社が参加する展示商談会があり、弊社も奄美コーナーを設置しております。これからも毎年奄美特産品のPRを続けます。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

奄美の伝統文化と沖縄の伝統文化の違いをしっかりと身につけて、都会の方へPRしていただければと。また、内地の人に奄美大島の位置を聞くと、沖縄の離島の一部だと思っている人が多いので、地理的な位置についてもしっかり伝えていただければと思います。

歳で奄美琉球居酒屋「土濱笑店」を大学時代に开店しました。

シマへの取り組みとしては、1999〜2001年の間で計4回奄美ツアーを実施(最多11名)。2009年に居酒屋をオープン。運営していく中で、できる範囲で奄美から仕入れを心がけ、主に近隣の方々に向けて奄美の良さをアピールしていきけるよう邁進中。また2013年には奄美市からいただいた復帰60周年の幟(のぼり)を店内に掲示。12月25日は復帰60周年記念のサービスを実施し、いらしたお客様へアピールしました。

●生まれたシマに対する思い

奄美で生まれ育ったことは、とても貴重で大切な財産だと感じています。育てて下さった方々の恩を無駄にしないよう立派でありたいと思うから頑張れるし、いつの間にか染みついた“島人魂”が私を強くさせている部分も大きいと思います。そして、いつでもそこにあって、帰ると癒してくれます。こんなに素敵な財産を仕事で活かせることは私にとってとても光栄なことだと思います。

●夢への哲学

「最低10年」という、とりあえずの目標をまだ達成していないし、私は成功者とは言えませんが……。夢があれば、それを叶えるために何をすればよいかを考えて実行し、少しでもいいから着実に近づいていくこと。そして、そのことを周りの人に話すことが大事だと思っています。人に語れない夢は抱いていないのと同じだと思います。

●今後の取り組み、予定など

いらしたお客様に奄美に関心を持って頂けるよう、きつかけづくりをする。小さなことだけど着実にやっていきたい。10周年を迎えた後は、もっといろんなことをしていけたらと思っています。

●シマを出る子やもた方へのメッセージ

田舎育ちによるハンディキャップで苦労することも多いと思うけど、負けん気を持ちながらも“謙虚に”頑張つてほしい。知らないことが多いぶん、人の倍吸収していく気持ちで。状況が困難であればあるほど強くなるチャンス!! せっかくのチャンスを無駄にするのはもったいないから頑張れ。



出身地：奄美大島笠利町土浜
生年月日：昭和54年12月27日(満35歳)
現住所：土濱笑店
東京都渋谷区神泉町12-4 アーガス神泉ビル2F
TEL：03-6416-1027
FAX：TELに同じ
e-mail：tsuchihama.st@hop.ocn.ne.jp
HP：www.tsuchihama.com

店舗詳細は p81 へ

奄美ふるさと100人応援団

奄美と沖縄の伝統文化の違いを身につけて

佐々木国雄

「株式会社サカリ代表取締役」



島から外へ、外から島へ。シマを生きる。

山中順子

「奄美観光大使、写真家、トネヤ(株)代表」

●これまでの取り組み・実績

モデル経験を生かし、96年から東京・横浜にてプロダクション・モデル養成所を設立。音楽イベントやテレビ、雑誌のキャスティング・

出身地：徳之島天城町天城
生年月日：昭和11年3月3日(満79歳)
現住所：居酒屋 大吉
渋谷区恵比寿西1-7-11
TEL：03-3496-8904
FAX：03-3770-7790
店舗詳細は p81 へ

●これまでの取り組み・実績

昭和29年、大島高校卒業後にシマを出て法政大学経済学部に入學、授業料は毎日新聞社などでアルバイトをしながら工面していました。大学卒業後はトヨタ自動車に10年間勤め、その後は独立して修理工場を経営した他、さまざまな仕事に就きました。そして「居酒屋大吉」を開業。店は今年で38年になります。その間、シマの子供達の自立のお手伝いをさせてもらいました。彼らが社会で活躍しているのとても嬉しいことです。

15年前からは天城町の観光大使にも任命していただき、毎年3月には徳之島出身の柔道家、徳三玉氏の墓参りツアーを敢行したり、徳之島トリアスロン実行委員を務めるなど町とシマのPRをさせていただいています。

●生まれたシマに対する思い

以前、沖永良部出身の方に「徳之島の人たちはどうしてあんなに活気があるんですか」と言われました。“物ごと燃える” “パワフル” というのは徳之島人の気質かもしれません。子は親の背中を見て育つと言いますが、子供を養つために毎日畑を懸命に耕す親の背中を見ていたから、徳之島の人々は「自分も頑張ろう」と自然に思えるのではないのでしょうか。

●夢への哲学

私自身は「きばりよー!」つまりEggnorの一言でここまで生きてきて、気づいたら60年経っちゃった。知人に聞けば、一代で30年間飲食店を続けられる人の割合は、わずか3%だぞ。私の店はシマの集まりの場でもあるので、今まで通り「儲けることより日々真面目に」の精神でもう少し続けていきたいと思えます。

●今後の取り組み、予定など

徳之島「夢」振興会議に参加し、100万本の花を植えてシマをフラワーアイランドにする運動や、空港にヤシやシロノの木を植えて、徳之島を日本のハワイにしようという徳之島空港植樹美化計画運動などに協力しています。シマがあつての我が人生。これからも、こうした報恩活動を続けていきたいですね。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

私は東京で人生を終えると思うけれど、故郷があるというのはやっ





事にまつすべてに『答えはあとからついてきます。』

●シマを出る子どもたちへのメッセージ
環境が人をつくり育むとしたなら…大きく豊かな感受性を島人は

持っています。離島だからできない、環境が悪いなど言い訳はきかない時代。人はどこにいてキャッチできる。夢なんてそう簡単に見つかる事ではありません『響いた

●夢への哲学
出会いの瞬間に感じたものは、醸成された後にやがて『ああ、そう

だったのか』と自身の内側に入ってきます。『後繋がりで』です。おそろしくこの積み重ねが夢への世界観となっていくのでしょ。夢は何ですか？ときかかれたら「シマ(奄美群島)でよ。ん答(ん答)です。』

●シマとつながるきっかけ
「島にとって必要な人になる、順子さんにとっても島が大切な存在

になる」と仕事仲間の「奄美人」が私に言い2000年の夏ロケハン(視察)で奄美に行きました。ばしゃ山村の三月若から神の子集落に入りカミミ子に繋がってゆく浜で光と水の洗礼を受けた。「ここのよ」という風の声に導かれシマと心身が繋がるきっかけとなった

●生まれたシマに対する思い
多様な文化、人が混ざり合う港町ヨコハマで生まれ育つ。異国文化と触れあい、人々と自然に交流するハマの自由さが沁み込みんでいます。私にとつて海の向こうはアメリカだった。20代アメリカ人アジ

アの生命力を感じジャーナリストとしての精神が芽生え、奄美にたどり着きました。
鳥越俊太郎×山中順子@ファンケル銀座スクエアなど、2004、2014年までドイツや国内外にて多数開催している。



左：奄美群島の100歳の方々の生き様をとらえた写真集
下：ネリヤカナヤという精神世界を写真と文字で伝える、奄美ガイドブック。島尾敏雄「大島だより」全文掲載！



出身地：神奈川県横浜市
生年月日：昭和45年6月27日(満45歳)
トネヤ(株)日本伝承プロジェクト
<本店>製作・流通
231-0007 横浜市中区弁天通り4-53-2 DOMON B1
TEL・FAX 050-3721-2388 メール sawan@d7.dion.ne.jp
<東京オフィス>企画・アートデザイン
141-0021 東京都品川区上大崎 2-13-32-603
TEL 03-5791-7156 FAX 03-5423-1537

奄美ふるさと100人応援団

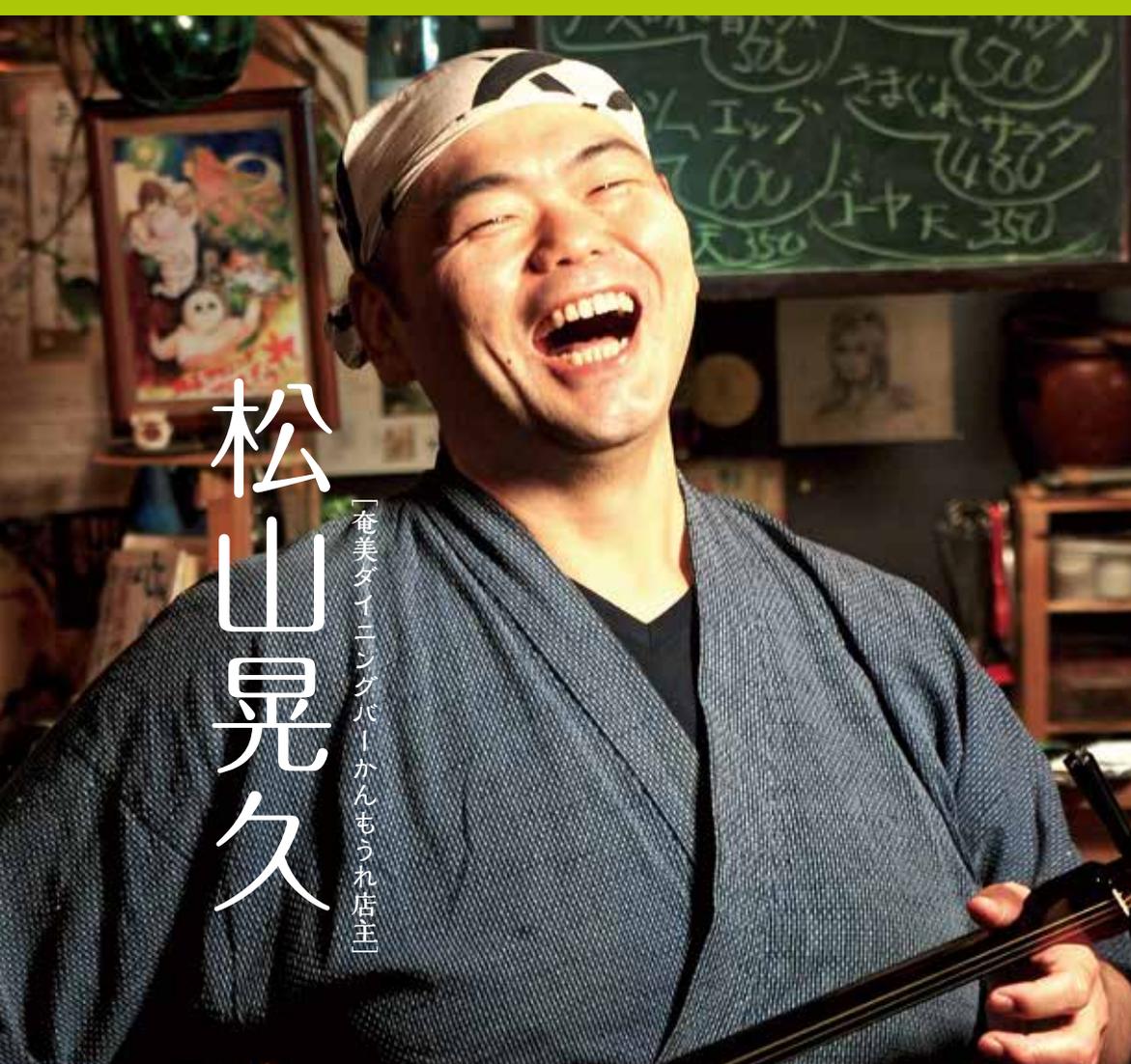
「儲けることより日々真面目に」の精神で

大吉平造

「居酒屋 大吉 店主」



ぱり心強いものです。皆さんも故郷と親、兄弟を大事にして下さい。それこそがシマンチュウの心だと思えます。全国各地には高校出身者の会や奄美会などさまざまな会がありますので、ぜひそつした会に参加して先輩にいろいろ教わって下さい。そうすれば自然と恩返しのできる気持ちが湧くと思えますよ。



松山晃久

「奄美ダイニングバーかんもうれ店主」

島料理で島文化を伝えていきたい



辛 卿美

「居酒屋 結」

奄美を第二のふるさとにしたい

●これまでの取組み・実績

丸4年、5年目に突入しましたが、開業以来変わらず続けていることは島の食文化、芸能そして島の良さを伝える事です（自分も研究し勉強しつつ）。あとは、南の島は沖縄だけでなく奄美群島という素晴らしい所もあるんだよと。こちらの方は沖縄と奄美を一緒に見る方がまだまだ沢山いるので、そういう方々に少しずつ伝えて理解してもらおうことも続けております。

●生まれたシマに対する思い

生まれは尼崎なのですが、小学校1年から中学卒業までの約9年の島の生活のなかできびかせぎや、浜下り、盆牛なぐさみ（闘牛）など、いろいろな島のしきたりや行事、その時の経験が、今の自分の人生にすくく役立っていると言っても過言ではないくらい恩を感じております。その恩返しをなんとかできないかと日々思っています。

●シマとつながるきっかけ

出身者というのはもちろん、今の自分があるのは島での生活があったものだと思います。

●夢への哲学

目標をさだめ（明確にして）、1歩でも半歩でも日々前進、今できることを無理なくコツコツやり続ける。

●今後の取り組み、予定など

今後変わらず島の食文化、芸能、島の良さをより多くの方々に知ってもらえるようにがんばっていきます。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

シマを出てこちらで努力して起業したり、その分野でトップクラスになった奄美群島出身の先輩方はたくさんいます。そういう先輩方に甘えるのではなく1つの目標と見据えががんばってください！

出身地：徳之島天城町
 生年月日：昭和50年3月16日
 現住所：奄美ダイニングかんもうれ
 台東区上野5-18-2 御徒町第2ビル B1
 TEL：03-5818-5567
 FAX：電話に同じ

店舗詳細は p82 へ



奄美ふるさと1000人応援団

出身地：韓国天安
 生年月日：昭和38年11月16日（満51歳）
 現住所：東京都千代田区神田 多町 2-11-5
 TEL&FAX：03-6206-9735
 HP：<http://kandayui.jimdo.com/>



店舗詳細は p82 へ

●これまでの取組み・実績

韓国から20年前に来日し、10年前に千葉でお店をオープン。現在は移転した神田の地で、厳選した新鮮素材を使った韓国料理のお店「結い」を営んでいます。奄美出身のお客さまに多数ご利用いただいていることから、光栄なことに奄美市より「奄美ふるさと1000人応援団指定店舗」の称号を授かり、それ以来微力ながらも、ご来店の皆様に対して奄美の広告塔の一人として観光と物産の宣伝をさせていただいております。2012年と翌年の二度に渡りお店主催で「結い奄美大島満喫ツアー」を実施。また、黒糖焼酎を嗜みながら楽しく島を語る「ふるさと創生奄美未来塾」の会場に「ご利用いただくなど、イベントにもご協力させていただいております。

●生まれたシマに対する思い

以前、千葉でお店をやっているときに、奄美出身の方々が毎月定例会「ゆるおう（寄り集まりましょう）会」でお店を利用していただいたのが奄美と出会うきっかけです。2011年10月、神田に店を移転する際に、奄美の人がいつも大切にしている「絆」と「結い（助け合い）“の精神にあやかり、屋号を「結い」としました。

私自身もぜひ行ってみたくと思ったことからお店主催で奄美大島ツアーを実施しましたが、奄美の青い空、そして温かい人々の心に触れ、「奄美を第一のふるさとにしたい」と心の底から思いました。

●シマとつながるきっかけ

これからは奄美の島料理にも挑戦し、黒糖焼酎の売上拡大に少しでも貢献できればと考えております。お店のメインは韓国料理ですが、「韓国料理と奄美黒糖焼酎のコラボレーション」をいつまでも大事にしていきます。イベントについても、「今度のツアーはいつやるの?」というお客様からの問い合わせがあることから、ツアー旅行を始め奄美の観光にもお役に立てるようなイベントを企画していきたいと思っております。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

「結い」にはいつでも奄美の酒があり食があり、奄美出身の素敵な方たちも集まってくれています。ぜひ心のよりどころにして下さい！

神秘的な島・奄美は大好きな場所

「株式会社秀永 代表取締役」

町田秀雄



出身地：東京都
生年月日：昭和 28 年 10 月 10 日（満 61 歳）
現住所：東京都文京区本駒込 6-24-6
TEL：03-3943-7626
e-mail：tnishikawa@work.odn.ne.jp

●これまでの取組み・実績

東京メトロ銀座駅にて常設臨時販売所を開設し、奄美大島特産品の販売をいたしました。また、同様に都内メトロ各駅で催事売店を出店、営業いたしました。その他にも毎年10月、文京区江戸川橋商店街にてイベント開催時に奄美大島物産展を出店、商店街活性化のお手伝いをさせていただいております。

●生まれたシマに対する思い

私は東京都杉並区出身ですが、奄美大島へのこれまで5回ほど出かけ、マングローブの原生林をはじめとする豊かな自然にすっかり惚れてしまいました。

●シマとつながるきっかけ

10数年前、1000人応援団の一人である、奄美大島出身の佐々木国雄様（16ページ）に奄美大島食材のご紹介をいただき、その魅力に大変感銘を受け、取り扱いのきっかけをいただいて今日に至っております。

●夢への哲学

子どもたちに夢を与える仕事につきたいとずっと思っていました。現在は学校教材の開発・出版および映像制作の会社に所属しており、この仕事を最後までやってゆきたいと思っています。

●今後の取り組み、予定など

各種イベント（臨時売店・商店街催事）への積極的参加を念頭に、奄美大島特産品販売と広報活動を継続していきたいと考えております。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

奄美大島の伝統文化を勉強し、他に類を見ない島の魅力をしっかり国内外へ情報発信してください。

●これまでの取組み・実績

1972年、明治大学商学部卒業後、株式会社日本香堂入社、営業畑、商品企画部など歴任。お香、お線香などにたずさわること38年、2008年12月に退社しました。

翌2009年1月に、株式会社秀永設立。

また2008年5月より、異業種交流「さつき会」を主宰。現在14社(すべて異業種)に至ります。

シマとの関わりとしては、2010年、大島紬ポケットティッシュ、念珠袋、寺院用教本入れ、シオルダーバッグなどを販売。翌2011年、奄美物産ギフトを発売。2015年、加計呂麻島「きび酢黒糖」をオリジナルパッケージにて発売など。

●私にとって奄美とは？

自然がそのままで素晴らしいところだと思います。なんと行っても神秘的です。大好きな場所です。

●生まれた場所に対する思い

私は埼玉県出身ですが、奄美ほどではないにしろ自然に恵まれた土地で育ちました。そうした自分の土地を誇りに思いながら、育ててくれた親に感謝し、また隣人とのふれあいを大切にしていきたいと思えます。

●夢への哲学

自分のことより、「他人に喜んでもらえるお手伝い」が私のテーマです。利他の心を心がけ、これからも生きていこうと思います。

●今後の取り組み、予定など

「きび酢黒糖」は1箱50g入りで、1梱100箱入りですが、年間10梱の定着を目指していきます。



出身地：埼玉県
生年月日：23年12月25日（満66歳）
住所：埼玉県朝霞市本町1-34-60-507
TEL: 048-483-5323
FAX: 048-483-5324
携帯：080-3349-4378
ホームページ：
e-mail：machida@e-shuei.com

奄美ふるさと1000人応援団

西川俊夫

「全教出版 株式会社」



子どもたちに夢を与える仕事につきたい

島人の熱さと温かさを知ってもらいたい

永田トモエ

会員制

「スナック友華」店主



俯瞰の目と同時に潮流を読む

前島伸一郎

「株式会社デンソーオート」代表取締役



●これまでの取組み・実績

①平成24年10月19～21日、応援団90人をお連れし、島観光を実施。19日には奄美文化センターにて「友華みな寄れ祭」を挙行し、1400人の来場者を得て、島文化の交流を図りました。
 ②平成26年5月24～26日、40人の応援団をお連れし、島観光と芸能の交流を図りました。

●生まれたシマに対する思い

青い海と空、マングローブを代表とする豊富な緑、豊かな自然に恵まれ、人に対して優しく、温かく、自分のことより他を優先する島の人間性に育まれたことを誇りに思います。独特な島唄は、島の風土と人の心を熱くし、勇気を与えてくれ、心の支えになっています。

●シマとつながるきっかけ

10代で上京し、寂しさに負けそうになったとき、同郷の人たちが励ましてくれました。島の人たちの出身者に対する温かさを知り、島の人たちの絆の強さを知りました。その熱い思いを支えに、周りの人（東京の人）たちに島の熱さを知ってもらう努力をしています。

●夢への哲学

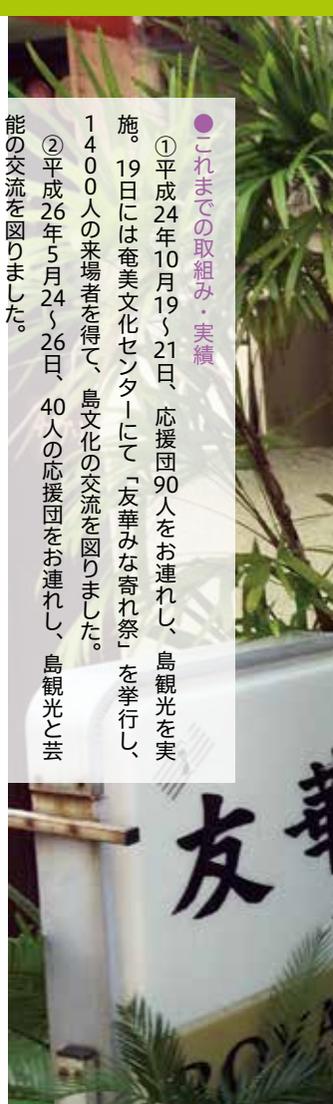
歌が好きで、料理が好きで、島から受け継いだ人懐っこさで、カラオケスナックを開業して早20年。お客様に島料理をふるまっているうち、島の全てを、素晴らしさを知ってもらいたいということが夢となり、いま現実になっていることを実感しています。

●今後の取り組み、予定など

体の許す限り、島の自然、料理、島の人たちの素晴らしさを伝えていきたいです。毎年とはいかなくても、何年かに一度はお客様を中心に島へお連れしたい。いつまでも豊かな自然、人たちがあってほしいと願っています。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

私が育った奄美大島の豊かな自然を大切に、風土が育んだ人を思いやる心と温かさを忘れず、奄美出身としての誇りと自信を持って欲しい。どこに行っても奄美は迎え入れてくれることを忘れないで欲しい……。



出身地：奄美大島名瀬
 生年月日：昭和21年10月24日（満67歳）
 現住所：東京都中野区中野5-57-10
 TEL：03-5380-8177

店舗詳細は p80 へ



奄美ふるさと100人応援団



出身地：奄美大島笠利町赤木名
 生年月日：昭和29年1月5日（満61歳）
 現住所：栃木県宇都宮市五代3-5-42
 TEL：028-688-3700
 e-mail：maejima.s@donet.ne.jp



●これまでの取組み・実績

平成3年、栃木県宇都宮に車載機器の販売・取付等業務を行う株式会社アンソートを設立、現在は茨城、栃木県内にドコモショップ5店舗を展開しているほか、携帯電話の販売事業や広告代理店などを展開するDonetグループの代表を務めています。事業におけるシマとの関わりとしては、ネット通販で奄美産の果物などを取り扱っています。また個人的には奄美大島の世界自然遺産登録推進のため奄美市に寄付をさせていただきました。

●生まれたシマに対する思い

18歳で福岡の専門学校へ通うためにシマを出て、19歳で働き始めてから41年間は栃木県。若い頃に出てきたので方言も話せませんが、シマに対する気持ちは持ち続けています。5年ほど前からは毎月帰るようになり、帰省するたびに癒されます。

●シマとつながるきっかけ

産地直送の無農薬農家の果物などを通信販売する「匠ウェブショップ」を開設し、奄美産のマングロー、たんかん、ヤマ・シークヮーなどを紹介・販売しています。また「自由に空を飛びたい」という長年の夢を叶えるべく、50歳の時にヘリコプターのライセンス取得にチャレンジ。平成23年に「奄美ヘリコプターサービス」を発足しました。

●夢への哲学

「俯瞰の目と同時に潮流を読む」
 近視眼的なものを見方をしつと、目先のことだけにとらわれてしまいがちです。成功するには常に全体を見て準備し、ヒト、モノ、カネだけでなく時代の流れを読むことが大切ではないでしょうか。もちろん、そのためには「一歩一歩の努力」が欠かせません。

●今後の取り組み、予定など

今後謙虚に、時代を生きる。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

ひとこと、誰にも負けないものを持つように、自信をつける。

●これまでの取り組み・実績

18歳で島を出て京都外国語大学に進学。卒業後に西陣織工業組合に入り、専務理事となった現在も京都の地から和装文化、染織文化の振興に努めています。昭和40年ころからは本場奄美大島紬の文化を守るための活動にも取り組み始めました。

西陣では昔から大島紬に合わせる帯を生産してきており、互いの縁は浅からぬものがあります。染織文化の世界で東の横綱が京都だとすれば、西の横綱は奄美。そんな和装の一大産地同士で連携していきたいとの思いから、西陣と奄美の「コラボレーション」事業を推進しています。

2013年11月には奄美群島日本復帰60周年を記念して、西陣織類やタペストリー、また本場奄美大島紬を使用した車いすを奄美市に寄贈。2014年2月には奄美市名瀬の紬会館で本場奄美大島紬業界関係者と懇談会を開き、和装文化の世界無形文化遺産登録などについて話し合うなど交流を深めました。

●生まれたシマに対する思い

島は、人生のすべて。生涯、万事島に学ぶ。

島は、オアシス、エネルギー。

島は「やさしさ」「人心」

●夢への哲学

人心。

●今後の取り組み、予定など

産業・観光・物産など多方面での振興。教育。シマウタ、シマグチの普及・伝承。シマの祭り復活と振興、そして伝承。さまざまな活動を通して奄美の郷土愛を伝えていきたいと思っています。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

常に心はシマに「帰る」。

常にシマグチ、シマ文化を忘れずに。



出身地：徳之島徳之島町山
生年月日：昭和12年3月3日（満78歳）
現住所：京都市上京区西堀川通元誓願寺上る竪門前町414番
TEL：075-432-6131
FAX：075-414-1521
e-mail：info@nishijinori-kaikan.ecnet.jp

シマで生きる人々のことを忘れずに

〔西陣織工業組合事務局長・西陣織会館館長〕

大槻 ゆづる



〔西陣織工業組合 専務理事〕

碓山俊光

常に心はシマに回帰

奄美ふるさと100人応援団



出身地：京都府綾部市
生年月日：昭和36年8月3日（満53歳）
現住所：京都市上京区西堀川通元誓願寺上る豎門前町414番
TEL：075-451-9231
FAX：075-432-6156
e-mail：info@nishijinori-kaikan.ecnet.jp

●これまでの取組み・実績

学生時代から京都で暮らし、卒業後、西陣信用金庫での営業や人事秘書などの職務を経て福祉の道に進み、ヘルパーをしながら専門学校に通い介護福祉士の資格を取得。福祉の仕事をしてきた折、信金時代の知人を通して西陣織工業組合の職員にお声をかけていただき、西陣との縁を感じて2007年に転職を決めました。現在は組合の事務局長と西陣織会館館長を兼務し、西陣織文化の継承・普及とともに西陣と本場奄美大島紬の「コラボレーション」事業にも携わっています。

●生まれたシマに対する思い

生まれ故郷は、人格形成の原点。

●シマとつながるきっかけ

奄美との出会いは8年前の「奄美・西陣コラボレーション展」がきっかけです。その後、2011年8月には本場奄美大島紬のアンテナショップを西陣織会館内に開設。2012年11月には（財）奄美群島地域産業振興基金協会との共催で「本場奄美大島紬アカデミーIN徳之島く結・絆」を開催し、西陣織との「コラボ」による十二単の着付けショーや試着会も開催しました。また奄美モニターツアーなど、今後も奄美・西陣の「コラボ」事業を推進していく所存です。

●夢への哲学

あきらめない。

●今後の取り組み、予定など

本場奄美大島紬アカデミーを通じて、製作品の充実と人材育成を進めていきたいと思っています。また、お客様の待ち時間の長い空港での展示を充実させるなど、物産のさらなるPRに努めます。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

人は「家」や「故郷」から離れることで、その良さを再確認することが出来ます。ご近所つきあいなど、常に身近な人との出会いと縁を大切にしながら、人と人、地域と地域のつながりに努めていただければ、そして、いつでもシマで生きる人々のことを忘れずに過ごしてほしいと願っています。

「あきらめない」ということ

千秋芳子

「有限会社キャロットハウス21 代表」

出身地：兵庫県尼崎市
生年月日：昭和42年11月24日（満47歳）
現住所：大阪市北区中津3-5-1 中津栄マンション602
TEL：090-8829-1747



●これまでの取組み・実績
200人の方を集めた音楽コンサートや、島コン、バーベキュー大会などを開催してきました。

●生まれたシマに対する思い

私は兵庫県出身ですが、父は宇検村長柄、母は瀬戸内町篠川の出身。その意味では奄美の2世といつことになります。専門学校時代に、寮に奄美出身の子がいたなど、場面、場面で島の子と出会ってきました。

私自身は20歳でダイビングを始め、奄美の海に潜った時に、「この奄美こそが自分の原点」だと感じました。今では奄美大好き人間です。

●夢への哲学

何事も諦めずに続けること。

●今後の取り組み、予定など

島ファンをひとりでも多く増やしていくことです。そのため、今までやっていない楽しく、魅力的なイベントを考案中です！

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

もし、島に戻ることがあったなら、「何もかも捨てて島に帰らないでほしい」というのが私の切なる願いです。今までのキャリアを捨てて島に帰るのではなく、その培ったキャリアを島で活かしてほしいです。島にいても頑張れる環境づくりをしてほしい。

私自身は島で生まれていませんが、島出身の若い子たちには都会と島を自由に行き来できる、そんな未来を作ってほしいのです。ネットが普及している今なら、自分の可能性を島から広げていくこともきっとできると思っております。

●これまでの取り組み・実績

6歳のころから日本舞踊を習い、10代からモデル活動をしておりましたが、着物コンテストで「準ミスきもの」に選ばれたことがきっかけとなり着物振興の活動を始めました。

京都に活動拠点を移した後、着物ショーに出演させていただいたことから西陣織会館での「きものショー」に関わり、現在はプロデューサーとして着物選りから演出、モデル指導まで携わっています。「きものショー」は1回15分のショーを1日7回、来館者に無料で公開するもので、天皇皇后両陛下を始め国内外の賓客に見ていただく機会も多く、海外公演を手掛けたこともあります。一人でも多くの方に「着ても見ても美しい」着物の良さをPRしていきたいとの思いから、40年以上このショーのプロデュースを続けております。

また1984年にはショーの企画運営会社「キャロットハウス21」を設立、社長に就任し、ヘアメイクアーティストの娘とさまざまなショーの運営、プロデュース、ウォーキング指導などもしています。

●シマとつながるきっかけ

「奄美・西陣」コラボレーション展「一環として開催されるきものショーで演出を手掛けたことから、本場奄美大島紬の文化継承、普及などにも関わるようになりました。

●夢への哲学

「あきらめないう」ということ。どんなに辛いことがあっても絶対に後ろを向かず、前だけを向き文句を言わないこと、そして楽しいことを考えるように努めること。人が作ってくれたルールにでも乗っていく運じも時には必要です。

●今後の取り組み、予定など

仕事を通じて本場奄美大島紬普及に努めるのはもちろん、自然の恵み豊かな奄美物産の普及にも携わっていかねばと思っています。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

どこに生まれ育ったとしても、そのただで生きていたら本当の良さにはなかなか気づけません。生まれ育った場所が一番だと分かるためにもどんどん外に出ていくべき。でも、「戻る場所」であるシマのことはいつもの心のどこかで思いついておきたい。



出身地：京都府京都市上京区
 生年月日：昭和22年5月23日（満67歳）
 現住所：京都市上京区西堀川通元誓願寺上る堅門前町414番
 TEL：075-451-9231
 FAX：075-432-6156
 e-mail：info@nishijinori-kaikan.ecnet.jp

奄美ふるさと1000人応援団

島ファンをひとりでも多く増やしていく

川島真司

「奄美大好き応援団」



奄美を誇りに想い、前進あるのみ！



萩原きよみ

「歌い手 関西奄美会広報部長」

「石を穿^うつ意志」が夢を実現させる



津田浩克

「あすなる法律事務所」

●これまでの取組み・実績

幼少時代はガキ大将でしたが、小学6年生の時の作文にはなぜか「弁護士になる」と書いていました。自分でも未だにその“変身”の理由が分かりませんが、大島高校卒業後に立命館大学の法学部に進学、卒業後は定時制高校の臨時職員などのアルバイトをしながら

●シマを出てから今日までのこと
 名瀬中学を卒業して鹿児島島に上り、専門学校に通いました。家庭の事情で17歳で大阪に出て来て早30余年！

島の事には全く興味がなく、出身は？と問われると「九州です」というのが日常でした。それが10年ほど前に、島の同窓生に誘われて手伝った郷土会のイベントがきっかけになり、島の事に興味が出てきたのです。島の文化や島唄など少しずつ理解できるようになり、三線・島太鼓・はと笛も我流ですができる様になりました。約7年前、島唄の唄者のサポートをさせてもらったのを機に島唄に興味を持ち、少しですが島唄も唄えるようになりました。

縁あって、5年前より名瀬中学校の先輩「大野 正喜さん」とユニットを組み、奄美アコースティックユニット「Nana」として唄の活動もしています。

『天人菊の丘』(別名 特攻花) 大野 正喜 作詞・作曲
 『デイコの花』(元ぶきのとう) 山木 康世 作詞・作曲
 が代表曲です。

現在私は、大阪の吹田市在住、相方の大野さんは奄美市在住(名瀬でギター専門 店経営)ですが、Nanaとして奄美や他府県の幼稚園・保育園・小学校・老人ホーム等への訪問を続けています。

※私の家族構成は、奄美出身の主人(同級生)と子供3人、孫2人犬が1匹です。

●これまでの取組み

奄美出身だと言いながら、殆ど島のことを知りませんでしたので、可能な限り各郷土会に参加してお手伝いをしていました。どの郷土会にも若者の参加が少ないため、島出身の若者や二世が集えるようなイベント企画や、奄美のPRイベントのお手伝いもしていました。

※ボーリング大会・合コン(まゆらむんパーティー)・音楽祭・タケノコ狩り・バザー等々

●これからの取組み

これまででの主な活動である、奄美をPRするイベントや郷土会のお手伝いも出来る限り続けていきたいです。



出身地：奄美大島瀬戸内町古仁屋生れ、名瀬育ち
 生年月日：昭和39年3月3日(満51歳)
 現住所：大阪府吹田市佐竹台2-4-6-705
 ※関西奄美会広報部長



奄美ふるさと100人応援団



出身地：奄美大島宇検村
 生年月日：昭和30年5月9日(満59歳)
 現住所：あすなる法律事務所
 大阪府大阪市中央区南本町1丁目4番10号
 TEL：06-6268-5070
 FAX：06-6268-5071
 e-mail：tsuda@asunaro-l.gr.jp

勉強を続け、6年ほどかかって司法試験に合格しました。現在は大阪にある「あすなる法律事務所」の代表社員として、中小企業の経営改革支援や事業再生、事業承継といった法廷外業務を主にしています。弁護士になって丸28年です。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

それぞれの前途が、未来が、実り豊かなものであれかしと祈りつつ、高校卒業後島を出て、以来島と本土を行き来しながら暮らしている先輩の一人としてエールを贈らせて欲しい。時の経過は、今となっては若い時に想像していた以上に速い。まさに光陰矢のごとしだ。

島を出るとき、それぞれに前景化する問いは、「自分の途を見据える」といつテーマだと思ふ。身の内から湧き上がってくる志を見据えて日々精進し、夢を実現する人もいるだろう。自分が成し遂げべきことが明確な人は、ふれずに道を究めて欲しい。先人は、「石の上にも三年」などと言いつづけてきたけれど、「石を穿つ意志」が夢を実現させるのだと思う。他方、「自分が何をしたいのかよくわからぬ」といことが悩んだという人もいるに違いない。それでも落ち込むことはない。大切なことは、自分の足場を固め、親や他者に依存せず、自分の食い扶持を自らの手で稼ぎ出して自立することだから。目の前の課題に取り組みつつ、それなりの時期に自立すること、これはおろそかにしてはいけないと思う。自立の過程で、「これでいいのかわか」と自問することもあろう。そんな時に、思い出して欲しいことがある。人は自分が何者であるかを自問するけれども、答えの多くは「鏡としての他者」を通じて得られるということ。他者のなかでも自らにとって「師匠」と呼べる人に出会えるかどうか、これはとても重要だ。誰かが、「君は今日から私の弟子だ。」などと言ってくれることはない。師弟の関係は、「弟子たる私」がこの人のようになりたい。「この人の全てを吸収したい。」と切望するところから始まる。弟子が師を名指しするのだ。公然とあるいは密かに。世間で言われている「出会い」の大切は、実は「鏡としての他者」に出会うこと、「師」に出会うことなのだと思う。

健康に留意し、日々を楽しみつつ、それぞれにこつての「修行時代」を送って欲しい。健闘を祈る。

●シマを出てから今日までのこと

生まれは神戸ですが、両親が徳之島・亀津出身であることから私も1歳から13歳まで亀津で過ごし、その後、京都・東山に転居しました。

京都の平安高校を卒業後、夜間の設計学校に入り、24歳で正栄工業に。現在は同社の代表取締役をしています。同社では食品関連ホテルコンベア・コンベアシステム、及び一般産業機械の設計・製作・据付工事を扱っております。

●これまでの取り組み・実績

現在は「奄美ふるさと100人応援団」の一人として、また「一般社団法人 徳之島」理事の一人として、次の活動を社団法人の理事・スタッフの皆様と共にいたしております。

おもな活動としてしましては、郷里・徳之島の民間業者、農家の皆様が生産、栽培した黒糖焼酎や過日、海産物などの特産品を仕入れ、JR尼崎駅そばのスーパー店内にて販売しています。こつした商品や大島紬の商品などは、折々の物産展でも販売し、好評をいただいております。

●生まれたシマに対する想い

仕事上、故郷とは接点がなかったのですが、「一般社団法人徳之島」や100人応援団の活動などもきっかけとなり、今では年に一度シマに帰っています。思い返せば、シマで友人たちと過ごした時間、彼らへの想いが、私をシマへ帰らせたのではないかと考えます。

●夢への哲学

一所懸命、働いて生きること。ひひひは自分の人生のもの、もつひとつは家族のものという気持ちを持って、「人の倍働く」ことを常に肝に銘じてきました。

人間に年齢はなし。生涯現役で仕事も、シマのための活動も行っていきたいと思えます。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

大切な“感性”をゲーム感覚で片つけないでほしいと願います。ともすれば欠けてしまいがちな「弱きを助ける」という心を忘れずに、友達や仲間を守ること、そして心のつながりを大切に生きて下さい。



出身地：徳之島徳之島町亀津
生年月日：昭和21年3月12日（満69歳）
現住所：有限会社 正栄工業
兵庫県尼崎市久々知2-26-6
TEL：06-6491-5930
FAX：06-6491-7717
HP：http://www.shoei-kogyo.jp



仲間を作ることに！

「エラブ百合を咲かそう広げよう友の会」

山元大安

「一般社団法人 徳之島 理事」

國一元正俊

一所懸命、働いて生きること

奄美ふるさと100人応援団



出身地：沖永良部島知名町
生年月日：昭和34年4月10日（満56歳）
現住所：兵庫県尼崎市大庄中通2丁目32-2
TEL：090-8579-9004

●これまでの取り組み・実績

兵庫県尼崎市の阪神尼崎駅前広場では、毎年6月に「エラブ百合を咲かそう広げよう友の会」主催による「エラブ百合まつり」が開かれます。この会は、阪神・淡路大震災の時に自宅が全壊した知名町出身の山本奈津子会長が、復興を支えてくれた人にお礼としてエラブユリの球根を贈ったことがきっかけで結成され、私も世話人として微力ながらお手伝いしています。

昨年12回目を迎えたこのイベントでは、会員が育てたユリの切り花約千本を来場者に配るほか、奄美出身者らによる踊りや歌も披露され、島のPRにも「役買」ついています。東日本大震災の後には、被災地のための募金活動もさせていただきました。

●シマとつながるきっかけ

「エラブ百合まつり」のほか、2008年1月には自宅を改装したスペースで「ギャラリーまるごと薩摩路」をオープンしました。運営は奄美出身者らで作る「関西奄美二木会」で行い、大河ドラマ『篤姫』や鹿児島島の観光PRポスター、サンゴ礁や砂浜の写真などの展示を通じて、奄美をはじめ鹿児島島の魅力を伝えています。

奄美への理解を深めてもらう場として、また奄美出身者同士の心をつなぐ場として、このスペースを活かしていければと思っています。

●夢への哲学

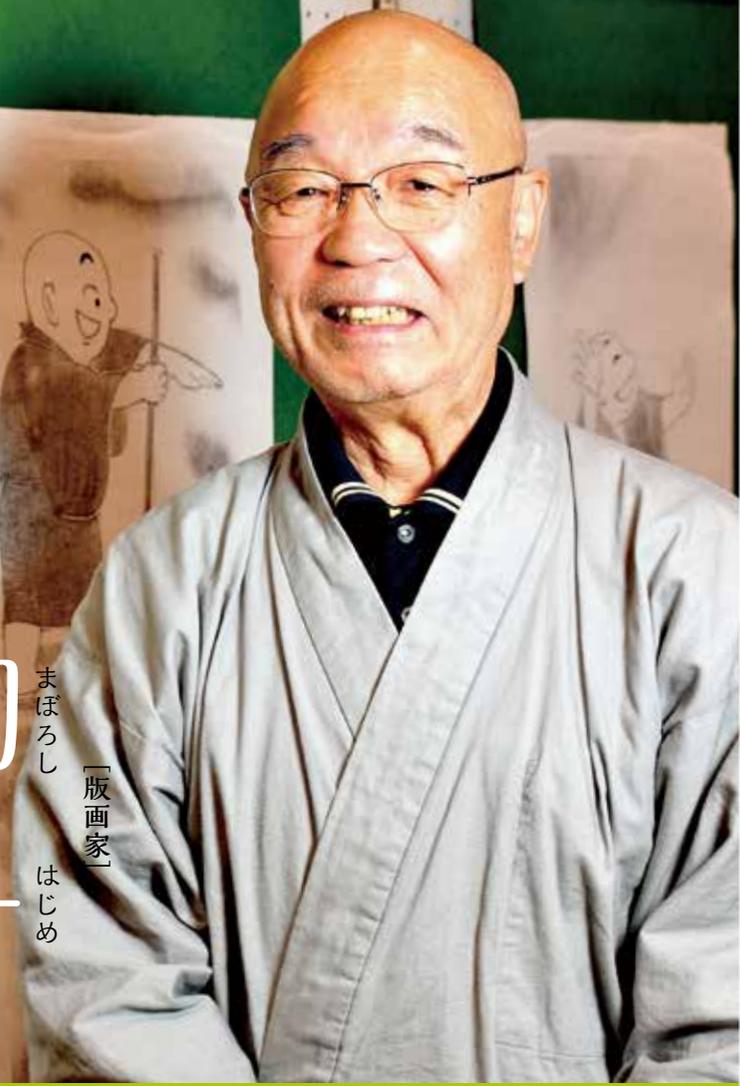
「両方とも立つ」

人を立てれば、後で自分が立つ。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

人間は一人では何もできない。仲間を作ること！

こころの遊び場、ご縁を結ぶ場を



幻

まぼろし

【版画家】

はじめ

本当にやりたい夢を持つこと。必ず実現できる



松本信雄

「NPO法人奄美青少年支援センター「ゆずり葉の郷」顧問」



●これまでの取組み・実績

1942年に京都市で生まれ、15歳から絵描きを目指すようになりました。1979年から「人々の喜怒哀楽のこころ」を描く「五百羅漢」をテーマに木版画で制作を始め、19年間で500羅漢全像作品が完成。「五百羅漢完成記念全国巡回展」開催を皮切りに、全国各地、世界各地を巡り、展覧会や講演会、版画講座などを開きながら版画芸術を通して人々の交流の場や楽しむ場を提供する「こころの森美術館」建設を呼びかけてまいりました。他方、1991年には京都・大本山南禅寺派宗雲寺にて得度し、禅僧に。画業は50年、禅僧としての道も20年を超えることができたのも、出逢った方々、支えていただいた方々のお陰とただ感謝するばかりです。

●シマとつながるきっかけ

私の父は東北大学の前身校の一つである旧制二高の出身ですが、十数年前、名瀬でたまたま知り合った内科医の先生が旧制二高出身しかも父と同学年とのことでした。その方の「両親が奄美出身であることから、「奄美で展覧会をされませんか？」とお声をかけて頂き以降毎年奄美で展覧会をさせて頂いております。7年前には「奄美まぼろし会」の発足、また6年前には奄美観光大使に任命され、第二の故郷のように「ご縁を結んで頂いております。」

●今後の取り組み、予定など

私が館長をしております「こころの森美術館」の国際版画展ツアーは、経済一辺倒の世界から脱却して、老若男女、障害の有無、人種、宗教や国を越え、いろいろな人々が「こころの森美術館」を中心に共に出会い、語り合い、働き、憩い、癒され、愉しみ、喜び、笑顔で生き生きとできる、「こころの遊びの場」「ご縁を結ぶ場を提供したい」の願いから、国内外を巡っております。今後とも展覧会や講座、教室などを通じてたくさんの人に出逢い、「こころ」を描き、表現していきたいと思っております。また、第二の故郷である奄美にも美術館を作りたいという長年の夢もあります。

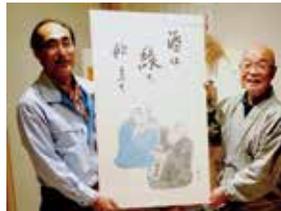
●シマを出る子どもたちへのメッセージ

人とのご縁を大切に
人生楽しく！ 笑顔百葉！



京丹後にて、作品展

出身地：京都府京都市
生年月日：昭和17年10月25日（満72歳）
現住所：京丹後市網野町網野町浅川462-1
TEL：0772-72-5686



奄美ふるさと100人応援団



出身地：東京都田端
生年月日：昭和24年3月7日（満66歳）
現住所：千葉県松戸市岩瀬433-14
株式会社メタック TEL.03-5284-5577
東京都足立区千住1-4-1 東京芸術センター 1708
TEL&FAX：047-366-0019
e-mail：nm49away@metac.co.jp
HP：www.biography.jp

●これまでの取組み・実績

日本大学生産工学部管理工学科卒業後、商社を経て1979年、30歳でメタック産業株式会社設立しましたが、60歳になった年、何回かの人生を始めたいと、30年間続けた文具OEM事業の清算を決意。今までのビジネスとはまったく違う、日の当たらない人々を応援する仕事をしたいと、カウンセラー、バイオグラフィ（自分史）作家の道へ。2011年、講談社より『結いの島のフリムン』出版。同年、奄美大島観光物産協会委嘱の第128代奄美観光大使に就任。2013年にはNPO法人奄美青少年支援センター「ゆずり葉の郷」顧問に就任、現在に至ります。

●シマとつながるきっかけ

3年前に勉強会仲間のご縁で初めて奄美大島を訪問して以来、どこまでも澄み渡る碧海と空に魅かれ、そこで触れ合う人々の人情の良さにさらに魅かれて気がついたら、奄美を大好きになっていました。そこで不思議なご縁で知り合った、本物の人生を歩む三浦一広氏に出会い、「彼を世に紹介しなければいけない」という使命感に駆られて『結いの島のフリムン』出版に至りました。こうしたご縁から奄美観光大使を委嘱され、大変光栄に思っております。

●夢への哲学

本当にやりたい夢を持つこと。必ず実現できる。

●今後の取り組み、予定など

三浦一広氏が率いる「ゆずり葉の郷」の活動をさらに発展させ、全国の荒れた少年少女たちの「奄美青年自然学園」を奄美に設立し、全国へ紹介する。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

人間はそれぞれ、苦しさを忘れて自分が熱中できるものを生まれながらに持っている。これは人によって全く異なるが、他人がどう思うかは関係なく、早くそれを見つけたら、他人と何かを比べることに不幸になる。幸せは自分の基準で目標に向かって努力すること。

「辛抱」の二文字を思い出して

横溝二郎

「1964年東京オリンピック日本代表」

●これまでの取組み・実績

パナソニック女子陸上競技部監督時代、毎年奄美に合宿していた縁から、2007年に奄美大島観光大使に任命していただきました。



出身地：徳之島徳之島町山
生年月日：昭和30年10月20日（満59歳）
現住所：㈱ユニワークス
神奈川県横浜市金沢区東朝比奈3-23-1
TEL：045-788-0773
FAX：045-788-2447
e-mail：hirata@uny-works.co.jp

店舗詳細は p81 へ

●これまでの取組み・実績

昭和49年に大島工業高校を卒業、川崎のNECに入社。料理を学びたくなり、夜間の専門学校で料理の基本を修めて昭和52年、料理の道に転職。昭和58年、自分の店を持ちたい、造るなら自分で設計した店をとの気持ちが強くなり、働きながらインテリアデザインの専門学校で2年間学び、卒業後、店舗設計の会社に勤める。平成9年に店舗設計施工の現在の会社を起業、平成14年に奄美沖縄料理の居酒屋「がちま家」1号店を川崎に開店し、現在は4店舗運営。内装工事はファストフード店（テナタッキー）を中心に施工し現在に至る。

●生まれたシマに対する思い

帰れるふるさがあるのは、気持ちに余裕が生まれる気がする。日常生活の中でも、心のすみに島に対する思いが島人はあると思う。島に帰ったら、親戚友人が集まって来る。帰って来た実感する時間です。そんな島や郷里を時の流れにただ流されて見ているのは寂しく思う。なにか出来ないか知恵を出し合う必要があると思う。

●シマとつながるきっかけ

居酒屋を始めて島の食材を取り寄せたことで島に対する思いが大きくなりました。もっと食材の開拓をしてメニューに活かしたい。島の食材はほとんどが採れる時期で終わってしまうのでお店で扱う事が難しい。年中、同じ食材が提供できればもっと増やせると感じる。

●夢への哲学

哲学は無いが、何事もスタートは基礎から。基礎がしっかりしていれば応用の幅がいくらでも広がるので、基礎が重要と思っています。私は別の仕事にチャレンジをする度、基礎を勉強してからスタートをしました。基礎を知っていればそれに対する自信が生まれてきます。基礎を勉強したことは今日良かったと思っています。

●今後の取組み、予定など

沖縄出身のスタッフはいるが奄美出身のスタッフが残念ながらもいません。島出身のスタッフを採用して、島口や島歌の飛び交う雰囲気のお店にして、奄美のPRをしたいと思っています。もっと店を展開していきたいので、興味のある方は是非一緒に島をPRしましょう。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

現在は東京国際大学駅伝部の総監督を務めています。大会や合宿、出張先での折々に奄美のパンフを配布したり、奄美の良さをPRしています。また、2013年には「奄美群島復帰60周年記念事業」のメインイベントである「奄美ファンサミット」で、スポーツ分科会のコーディネーターを務めさせていただきました。

●生まれたシマに対する思い

島人の方々の人の良さと、外からの者を受け入れてくれる優しさには、いつも感謝しています。海が大好きな私にとっては、白浜海岸など奄美の美しい海も大きな魅力のひとつです。

●シマとつながるきっかけ

最初のシマとのつながりは偶然でした。高校3年生のとき、全国高校総体の1500m、5000mの2種目で優勝したことから沖縄での選抜合宿と呼ばれたのですが、向かう船が台風に遭い、急ぎよ名瀬港に避難し名瀬で一泊したのです。その後、平成元年からはパナソニック監督として選手を引き連れ、毎年のようにホテルビッグマリオン奄美に宿泊しながら強化合宿を行っていました。

●夢への哲学

2020年の東京オリンピックを迎えることが今の一番の夢です。前回の東京オリンピックで3000m障害の日本代表として出場した私にとって、人生で2度のオリンピックが経験できることは何よりの喜びです。その日を迎えるまで、奄美のために私なりにできることをやっていきたいと思っています。

●今後の取り組み、予定など

私は生まれも育ちも横浜です。神奈川県またはその近県にいらつしやる奄美出身の方々と交流ができればと思っています。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

私も長い陸上競技人生のなかでたくさんの人と出会い、交流を深めていくなかで成長させていただきました。みなさんでもできるだけ多くの方々と交流し、人生を豊かなものにしてほしいと願います。また、これから先には困難や苦勞も待っているかもしれない。そんなときはどうか諦めたり投げ出したりせず、「辛抱」の二文字を思い出してください。



出身地：神奈川県横浜市
生年月日：昭和14年12月9日（満75歳）
現住所：神奈川県横浜市南区永田北1-17-12
TEL：090-5302-6752 045-712-1863
日本の陸上競技・五輪選手
1964年東京オリンピック・陸上3000m障害日本代表
陸上競技テレビ解説者
陸上競技指導者。駅伝指導者
現在は東京国際大学駅伝部総監督

奄美ふるさと100人応援団

平田修

「奄美沖縄料理・居酒屋がちま屋 代表」

何事もスタートは基礎から

島に居ても色々な情報が検索できる現在ですが、島を出ると知らない人との付き合いになります。色々な人にめぐりあいます。付き合い方によって自分の人生は極端に変わります。付き合い方を選んで目を養って下さい。いつでも島の友人や同級生とは連絡を取り合って大切にしてください。何事も素直さがどんな仕事をしていても役立ちます。素直になることは難しい場合も出てきます。そういう時に思い出してみてください。素直な心を忘れずに頑張ってください。

●これまでの取組み・実績

中学・高校時代は県大会で優勝するなど柔道に打ち込んでいましたが、19歳で脊髄分離症になり1年間の寝たきり生活を余儀なくされました。医者からも見放され、「自分で何とかするしかない」と一念発起。ボディビルと出会ってからは、全日本ボディビルコンテストで25回連続入賞などボディビルと本気で向き合うかたわら、1977年には東京・御徒町にトレーニングセンター「サンブレイ」をオープンし、現在に至っています。指導者となってからは独自のウエイトトレーニング法で、柔道のオリンピック金メダリストや相撲力士、プロ野球選手ら多くのアスリート、また芸能人や文化人の方を指導してきました。奄美への取り組みとしては観光大使の役目を仰せつかり、島のためにできる限りのことをしたいと考え行動しています。

●生まれたシマに対する思い

島にいた頃の私はスポーツが大好きな少年でしたが体は弱いほうで、「強くなりたい」と常に思っていました。東京に出てきてからは、島に思いはあるものの帰れないという気持ちでいましたが、最近では島のためになればと車イスを寄付させていただくなど、島との縁はどんどん深まっており、今でも年に一度は里帰りしています。

●夢への哲学

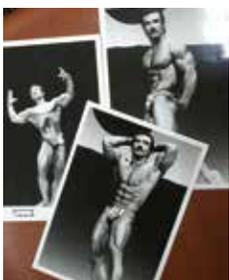
私の主宰するトレーニングセンター「サンブレイ」には大勢のスタッフが働いてくれます。素晴らしい人間ばかりで、私にとってはスタッフこそが自慢です。将来みんなが豊かであるようにすることが大事であり、私の夢でもあります。そのためにも、健やかな日々を送り「生涯現役」を目指したいと思っています。

●今後の取り組み、予定など

トレーニング指導者としては今後も競技の別なく誠心誠意、本気で伝えていきたいと思っています。また、1998年に埼玉県三郷市の「シルバー元気塾」で高齢者の筋力トレーニングを指導したのを皮切りに、全国の自治体で高齢者健康指導を続けています。どんな人でも年齢に関係なくできるようなトレーニングをこれからも伝えていきたいですね。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

今と昔ではだいぶ時代が違つとは思いますが、私が島を出た53年



出身地：奄美大島瀬戸内町古仁屋
 生年月日：昭和16年8月21日（満73歳）
 現住所：トレーニングセンター サンブレイ
 東京都台東区上野 5-10-26
 TEL：03-3836-4795 / 090-8878-2670
 FAX：03-3839-7476



「志を高くする」夢を持ち続けること

「銀座もとじ代表取締役社長」

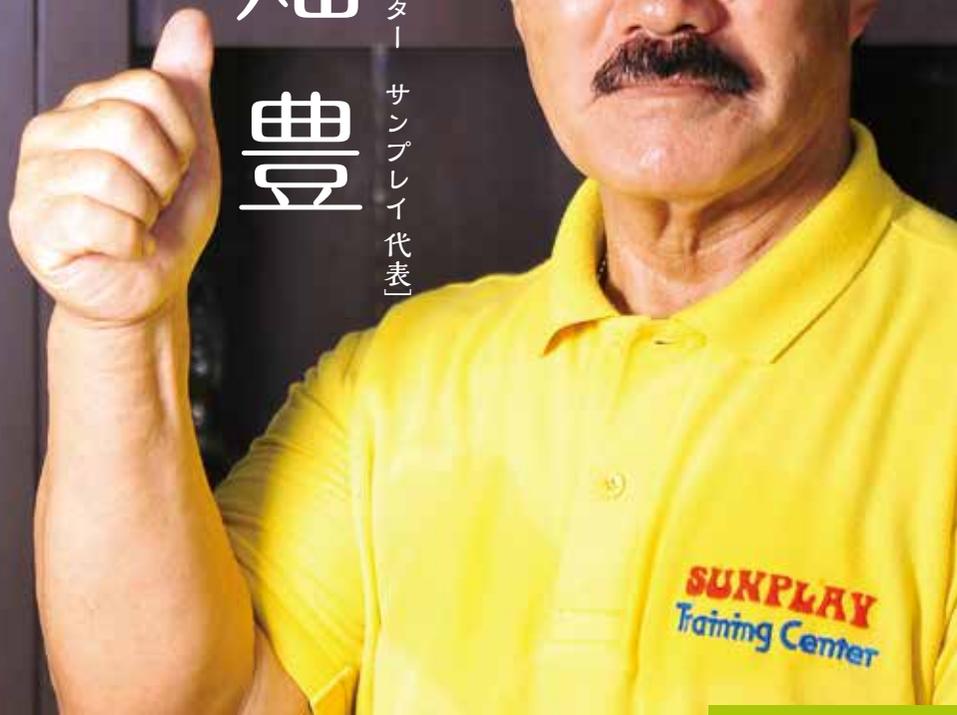
泉一弘明

ほど前は「二度と帰れない」という気持ちがとても強かった。その真剣な、痛切な気持ちがあったからこそ今、島とつながれているのだと実感しています。みなさんも「本気」で生きるということを人生のモットーに頑張ってください。私も本気で応援します。

宮畑 豊

「トレーニングセンター」 サンプルイ代表

「本気」で生きるということを人生のモットーに



奄美ふるさと100人応援団



息子で二代目の啓太さんと

出身地：奄美大島龍郷町中勝
生年月日：昭和24年12月10日（満65歳）
現住所：東京都中央区銀座4-8-12
TEL：03-5524-3222
FAX：03-3535-5533
e-mail：kikaku@motoji.co.jp



●これまでの取組み・実績

1979年、東京・銀座に呉服屋「銀座もとじ」を開店。専門特化した店づくりを行い、着物の奥深さを国内外にご案内してきました。

「新しい時代の新しい着物店」のモットーに、2000年には女性の織・染専門店「銀座もとじ 和織・和染」、2002年には日本初、男の専門店「銀座もとじ 男のきもの」、そして2012年には大島紬専門店「銀座もとじ 大島紬」をオープン。開店から35周年を迎えました。

●生まれたシマに対する思い

この道に入れたのも奄美生まれだからこそ。シマに生まれていなければ、今の自分はありません。そんなシマ文化を多くの人に伝えたい、また一方で銀座の匂いと風を伝えてゆきたいとの思いもあり、2012年に念願の大島紬専門店を作りました。

●シマとつながるきっかけ

毎月5（こ）日、9（く）日、10（とつ）日は「奄美大島を味わう日」とし、大島紬店にてお客様に黒糖焼酎や奄美大島の郷土の味をお試しいただき、奄美大島の風を感じるひとときを楽しんでいたでいます。また、昨年は大島紬店にて「ぎょらぎん 大島紬展」を、和織店にて「島唄と黒糖焼酎を楽しむ会」をそれぞれ開催するなど、奄美大島の文化を発信しています。

●夢への哲学

「旗を立てる」つまり、目標を具体的に持つこと。3年後、5年後の自分を思い描くこと。そして、常に「感謝」の気持ちを忘れないこと。

●今後の取り組み、予定など

作り手の思いを届ける「伝える職人作り」と共に、大島紬を絶やさないうために、どんな大島紬が求められているのか、お客様の声を奄美に届け、今の時代に合った大島紬を作っていきます。そして銀座から奄美の文化や、大島紬の魅力を発信していきたいと思っています。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

「志を高くする」夢を持ち続けること。そして、成長のためには素直な心で人の話を聞くことが何より大切です。私自身は「反省しても後悔はするな」という奄美の恩師の言葉を、一所懸命やりなさいという意だと肝に銘じ、座右の銘としています。

島外、世界に出て、いろいろな経験を積んで！

佐藤理恵

〔株式会社メッツ研究所〕



出身地：奄美大島名瀬
生年月日：昭和50年2月20日（満40歳）
住所 YUTYMORE
東京都町田市原町田6-17-1 藤ビルB1F
TEL：042-851-7815 FAX：042-851-7815
Facebook 有
ホームページ：yutymore.com
e-mail：shigejet1975@mg.point.ne.jp

店舗詳細は p80 へ



●これまでの取組み・実績

1975年、母の里帰り出産で奄美大島名瀬市にて誕生（父は喜界島出身）！その後東京にて幼少期を過ごす。小学生の頃の夏休みはほぼ島で過ごす。20歳から工業系の仕事に就くが、26歳の頃に母の実家（名瀬）を継ぐ話が浮上！いつか島に帰る時のために手に職を付けるため、夜間の調理師学校へ通う。28歳で調理師学校卒業と同時に日本料理店に修行に入る。独立を考えた時に、やはりいわれがあり独自性のあるお店をやりたいと思い、34歳で「奄美シマジュウリ yutymore」をオープン！奄美と内地の架け橋、奄美のセールスマンを勝手に遂行中です。

●夢への哲学

私の夢は、島から上京して来た子供達がうちの店でバイトをしてくれることです。また島の雇用を増やすのが一番の夢です！

●今後の取り組み、予定など

第1に、沖縄と言われない奄美大島の内地の人への周知。いまだに本店では「泡盛なの？」とか「奄美は沖縄でしょ」とか言われるので、「奄美は奄美大島です、一応鹿児島県ですけど」と言うようにしています。

第2に、島に1回も行ったことがない人を島に連れて行く努力をすること。1回来て貰わないと何もわからないと思うので、桜マラソンなどイベントに当てる呑み明かします。第3に、当店は本島の島料理がほとんどなので、群島全部の料理を出せるようにします。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

ちょっとフレッシュヤーになっちゃうかも知れないけど、島を出た時点でみんな一人ひとりが島の広告塔です！方言バリバリで過ごしている若い先輩方もいます。無理に共通語なんて使わなくても良いんです！逆に方言の方が温かみがあるし優しい感じでモチますよ。そして奄美を知らない友達や彼氏、彼女に奄美を教えてあげて下さいね。PS 困ったことがあったら yutymore(ユティモレ)まで連絡して下さいね〜

●これまでの取組み・実績

友人に奄美の良さを伝えながら、奄美の旅を一緒に満喫してま
す。

●生まれたシマに対する思い

奄美に行ったことで、自分の故郷・香川の良さを見つけることが
できました。

●シマとつながるきっかけ

学生時代、地図を見ながら卒業論文のフィールドを探していたと
きに、「瀬戸内町」を発見しました。瀬戸内海で育っていたこと、そ
して加計呂麻諸島がとても美しい場所に思えて、飛び込んでいきま
した。そして、ハマってしまいました。

●夢への哲学

まわりに迷惑をかけず、でも信念を貫いて実行します。

●今後の取り組み、予定など

①日本の島を広く知ってもらうため「しま体操」(しま体操の
しまの特徴を体で表現する体操。http://shimakeijimdo.com/
奄美でも広めていきたいです。)

②東京で、島々の若者たちと都会の若者たちとの
交流を図り、さまざまな価値観を共有して、一
緒に新たな取り組みやビジネスを生み出していき
ければと思います。

③奄美群島も含め、島の空き家活用を進めてい
きたいと思います。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

どんだん島外、世界に出て、いろんな経験を積
んでくださいー！



出身地：香川県
生年月日：昭和 50 年 5 月 23 日（満 39 歳）
現住所：東京都新宿区矢来町 126
NITTO ビル5階 株メツツ研究所（勤務先）
TEL：070-6656-0278
（勤務先 TEL：03-5227-7802
勤務先 FAX：03-5227-7807）
e-mail：kakeromazima@yahoo.co.jp
sato_r@mets-ri.co.jp

奄美ふるさと100人応援団

島の雇用を増やすのが一番の夢です！

相良茂樹

「奄美シマコミュニティ yuymore」店主



形屋篤子

「奄美料理 ほこらしや 店主」

奄美語を繋げて次の世代へ



山田茂樹

「焼き鳥居酒屋 Ryoma 店主」

「継続は力なり」決めるのは自分

●これまでの取組み・実績

2003年に念願の奄美居酒屋「ほこらしや」をオープンしました。東京で出会えた皆さんを奄美大島に案内するのが、まずは一番の夢でした。お店主催の「ほこらしや奄美ツアー」を昨年までに10回行っています。(昨年は10回目なので10月10日に奄美入りしました)。また関東での奄美イベントには率先して参加させて頂いてきました。六本木ヒルズでの奄美イベントでは、ケータリング車で鶏飯&油ぞうめんを出店するなど……「アマクマ」に参加させて頂いてきました。

●生まれたシマに対する思い

島で生まれ育ち、内地に出てきて故郷の素晴らしさを痛感する。島を離れた方なら、誰もが感じるのかなと思います。私もその一人でした。東京で暮らして32年になりますが、方言&アクセントを一切直さずに今日まで来ました。まわりの方から「貴方は何処の出身?」と言われ、「奄美大島です」と答えるのが好きで、自分らしさを大切にしてきました。

島の人には本当にご先祖様を大切にします。そして家族は当然ながら近所で出会った人が困った時もほっとけない人柄が多いと思います。短所は「お節介」ってこともありますが、親子でもない近所のおばちゃん「はつけ、帰って来たのね」って島料理を持って来てくれる。そのまるで家族のように当たり前に「お帰り」と言ってくれる言葉聞きたくて、島に帰るって感じてました。自分自身含め、皆さんとそのような思いを繋げていきたいと、念願の奄美居酒屋「ほこらしや」をオープンしました。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

あなたが生まれ育った島の良さは、時間が経てば経つほど後で痛感することだと思います。私もそうでした。煩わしいことも多々ありましたが……。

お爺ちゃんお婆ちゃんが喋る、島の方言をいっぱい覚えて欲しいです。言葉(奄美語)を繋げて奄美大島の良さを次の世代へと、残していけたらいいですね。



出身地：奄美大島住用町見里
生年月日：昭和39年7月24日(満50歳)
現住所：奄美料理「ほこらしや」
東京都中野区新井 1-14-16B104
TEL：03-3319-7600

店舗詳細は p80 へ

奄美ふるさと1000人応援団

店舗詳細は p82 へ



出身地：奄美大島名瀬大熊
生年月日：昭和30年11月14日(満59歳)
現住所：東京都新宿区四谷 1-7-27-1F
TEL：03-3356-2506 FAX：TELに同じ

●これまでの取組み・実績

1994年に焼き鳥居酒屋「Ryoma」をオープンし、丸20年になります。サラリーマンの街・四谷にシマの人たちが、土日に関わらずお客として来てくれています。この店はシマの人たちのおかげでもってきました。本当にありがたいです。2012年には新高円寺に「Ryoma」2号店もオープンしました。当店でバイトしていた若者が、新潟、大阪、高円寺、そして奄美で店を開き、それぞれ繁盛しているとのこと。育てた甲斐があり嬉しいことです。

●生まれたシマに対する思い

シマの黒糖焼酎や料理の鶏飯、鶏ソバ、ポークハム卵などを通して、都会の人たちに奄美をPR。シマと都会の交流が進めばいいとの思いで、開店当時から紹介、作ってきています。

●シマとつながるきっかけ

30歳のときにシマを出てきましたが、そもそもシマとつながっているし、お店を通じていつでもシマの食や人々とつながっています。

●夢への哲学

「継続は力なり」です。

●今後の取組み、予定など

今まで通り、島と都会の人との交流、PRの場になればいい。それがシマへの恩返しだと思っています。お店に、成田-奄美大島路線のある格安航空会社「パニエア」のチラシを置いていますが、来客者のほとんどが目留め、持って帰ります。奄美がぐんと近くなった感じ。こういう取り組みを、役所を含めてやってほしいし、その手助けを及ばずながらしていきたいと思っています。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

ただのバスケット大好き人間だった私が、焼鳥屋の仕事が面白くてこの業界に入りました。東京の人は、次の仕事の準備はするし、時間にも厳しい。そこが私の肌に合ったようです。若い子に伝えたいのは、ギアチェンジしている好きなものを見つけていけばいいということ。決めるのは自分。知らない土地でいろいろな人と知り合って、自分の人生の目的を見つけてほしいと思います。

●これまでの取組み・実績

18歳から6年間、東京で過ごした後、1996年まで名瀬で大島の機織り屋をしていました。その後、名瀬市役所からお願ひされたこともあり、大浜海岸でBBQ（バーベキュー）レストランを10年ほど経営しました。

沖繩に現在の店をオープンしたのは2009年10月のこと。55歳の時です。奄美以外での出店を考えており、東京などからも出店の依頼がありました。全国から観光客が集まる日本で一番の観光地に、そしてまだ炊き肉料理店がない土地にオープンしたいと考え、那覇に決めました。

オープン当初は知り合いもおらず、お店は閑古鳥。それでも、奄美のレストラン時代に親しくなった現・巨人の村田修一さんや、現・侍ジャパン監督の小久保裕紀さんらも来店して下さるようになり、人とのつながりでここまでやってこることができました。お店も自分自身も、たくさんの方の支えで成長させてもらっています。

●生まれたシマに対する思い

奄美の食、酒を多くの人に知ってもらおうと、店では鶏飯、油ぞーめんなどの奄美料理や数々の銘柄の黒糖焼酎を取り揃えています。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ
人間は運よ！あとは度量と根性！



店舗詳細は p95 へ



出身地：奄美大島名瀬幸町
生年月日：昭和 28 年 10 月 18 日（満 61 歳）
現住所：「炊き肉の店 牛ちゃん」
沖繩県那覇市西 1-16-3 那覇ウエストイン2F
TEL：098-863-3634



今、したいことを全力でやる！

「奄美料理店 語久庵 店主」

中川大輔



●これまでの取組み・実績

2004年から福岡大名で奄美料理店を経営。月に一度の奄美イベントや年に数回の大型イベントを実施。奄美アーティスト（カサリンチュやハシケン、川畑あきら、大山百合香）もGokin奄美ライブで熱唱。龍郷町戸口の「肥後染色・夢しほり」山元隆広さんの協力の下、福岡での「泥染め体験」も大盛況。そのほか、お客様と行く奄美・Gokinツアーなども実施しています。

●生まれたシマに対する思い

第2の故郷が奄美大島です。その島を一人でも多くの人に伝えていく事が、ワンの使命っち思っています。今ではテレビや雑誌で多く取り上げられていますが、語久庵のオープン当時は奄美という島のことを知っている方が少ない時期でした。「沖繩」とも違っ





「炊き肉牛ちゃん店主」

元治満次

人間は運よ！ あとは度量と根性！



奄美ふるさと100人応援団

出身地：福岡県
生年月日：昭和53年1月12日（満37歳）
現住所：語久庵（Gokui）福岡市中央区大名1-8-42-1F
TEL：092-752-7400
e-mail gokuui@gamma.ocn.ne.jp
トウジ：中川珠美（旧姓：中村）
奄美大島本龍郷出身

店舗詳細はp92へ



『鹿児島』でもない『奄美』を伝えていきたいと思えるシマです。

●シマとつながるきっかけ

トウジとの出逢いがきっかけで、初めて訪れた奄美大島・龍郷町に一目惚れ。数カ月後に移り住み、島料理や黒糖焼酎の知識などを学ぶ。4年弱の間に奄美大島、喜界島の蔵元を巡り、当時福岡では珍しい黒糖焼酎を楽しめるお店としてオープン。また家で食べた鶏飯に感動。より多くの方々に食べていただきたいとの思いで現在に至る。

●夢への哲学

料理を始めたのは16歳の頃で血洗いを2年ほどしてから、本格的に始めるために専門学校に行き基礎を学びました。現在も学ぶことばかりで、飲食業というのは終わりがいいからやめられない。自分自身が「これ以上の味は、ない」と決めた時点で、終わる仕事。だからこそ日々研究し、新たなことに遠回りでも挑戦し続けることが哲学みたいなものですかね。夢は叶えるためにあるものと思うので、スタッフとともに日々走り続けています。とにかく、あまり振り返らず前に進み続けていく努力をしています。

●今後の取り組み、予定など

今後も、奄美を広げていくために大名のお店の2号店を『奄美』に出店します。島野菜や地魚・旬のものを直接見て、仕入をするためでもあります。福岡で働いてみたい方は福岡店へ、奄美で働きたい方は奄美店へという流れができればと思います。福岡から、奄美をもっと広めるイベントも開催します。島唄ライブや黒糖焼酎会・奄美泥染め体験・お客様と行く奄美ツアーも開催します。

●シマを出る子もたちへのメッセージ

島にいる間に島の良さをとっていたファンですが、一度離れてその良さが身に染みるほど感じられました。後悔をしない人生を送ることが一番。今、したいことを全力でやる！結果は努力すればついてくる。そう信じて、2004年から大名で「奄美島料理店」をやっています。『ただいま』うち入れば、そこは奄美です。だから、疲れたり悩んだりした時はいつでも遊びにいもりんしよ。奄美出身スタップたちが、まっちゃん。内地に来て、きばれよ!!

ありがとうございます。



いつでも帰りたい島。こころ豊かにしてくれる島

〔日本民踊研究会師範〕

中島玉世



出身地：三重県
現住所：(株)希望荘
三重県三重郡菟野町千草 7094
TEL：059-392-3181
FAX：059-392-3180
e-mail：mansaku@kibousoh.or.jp
HP：http://www.kibousoh.or.jp/

●これまでの取組み・実績

三重県の湯の山温泉にある「希望荘」で取締役会長を務めております。希望荘とは「協同組合 三重県勤労者福祉センター 希望荘」が所有する宿泊保養施設の事業運営を全面委託され経営をする宿泊産業です。昭和42年の創業以来、施設や料理等の充実を図り、温泉を愛する全国の皆様からご愛顧をいただいております。

●シマとつながるきっかけ

希望荘では平成7年に2名の奄美出身者を雇用して以来、毎年1〜6名の雇用を続け、現在は正社員42名のうち奄美出身者は26名と半数を超えています。こうした旅館としての取組みから、2012年9月には「奄美観光大使」に任命していただき、シマのPRや就労支援などを微力ながらお手伝いさせていただいております。

●今後の取り組み、予定など

希望荘では4年に1回、「奄美フェスタ 島つたの夕べ」と銘打って、奄美の料理や黒糖焼酎を楽しみながら、本場奄美大島から唄者の皆様を招きディナーショーを開いています。このイベントの目的は、地域の皆様方に島の文化と伝統に浸って頂くこと、島出身の従業員に郷里を懐かしみながら郷里の良さを再発見してほしいということです。今後とも、奄美の食や文化を多くの人に伝えるこのような取組みを、奄美出身の社員たちともアイデアを出し合いながら続けていきたいと思っております。

●夢への哲学

「怒」とは「他人を思いやる心」「自分がされたくない事は他人にもしない」ということです。その心を自分も磨き、縁あって出会った奄美出身者の皆様と仕事を通して怒の心が自然と身に付くような人材と、旅館業の商品である従業員のおもてなしの心と振る舞いを出来る人材を育成し、奄美の若い原石をダイヤモンドのように輝く人材に育てていきたいと思っております。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

希望荘で働いている奄美出身の先輩たちは皆、純粋で人懐っこく訪れたお客様の中には「働いている人の人間性に魅了された」という理由でリピーターになって下さる方も多いためです。そうした「島っ



〈奄美出身者の雇用実績〉平成7年=2名/8年=1名/9年=2名/10年=2名/11年=1名/12年=2名/13年=2名/14年=2名/15年=3名/16年=3名/17年=2名/18年=2名/19年=3名/20年=2名/21年=4名/22年=4名/23年=3名/24年=4名/25年=6名/26年=2名

●これまでの取り組み・実績

100人応援団任命以前ですが、日本民踊研究会師範として以下の活動をいたしました。

平成13年7月 奄美公演 100名参加

平成20年2月 奄美公演 100名参加

平成23年11月 与論島公演 45名参加

※平成27年11月 奄美公演予定

●生まれたシマに対する思い

奄美公演および観光で行く時は、できるだけ奄美の旅行店等でお願しています。

各地域に呼ばれることが多く、そのたびに奄美の特産品を持っていき、かなりの人がお取り寄せしています。

多くの人が奄美大島に一度は行きたいと思っています。仕事柄、色々な方々と出会うので、その橋渡しをと思っています。

●私にとって奄美とは

いつでも帰りたい島。ここが豊かにしてくれる島。でも何かが足りない。島全体がはじけるようなことがあると良いなと思っています。

たとえば、8月3日間でも1週間でも通りを八月踊りで夜中まで踊る。大勢の観光客を呼びよす……。日本三大流し踊りの「郡上踊り」「阿波踊り」「黒石よさげ踊り」の様な……。

●シマのまごとは？

奄美の風景や食べ物、そして各行事でもやっぱり「シマの人のこと」だよ。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

奄美のシマシマを行くと、ほとんどの子供達があいさつしてくれま

す。どうも素晴らしいことだ誇らしい気持ちになります。返事をはっきりと、いつも笑顔で絶やさないで下さい。



出身地：沖永良部島知名町
生年月日：昭和21年5月21日（満68歳）
現住所：愛知県豊橋市富本町国隠20-22
TEL & FAX：0532-45-8450



奄美ふるさと100人応援団

「島つちゆ」ならではの資質は皆さんの宝物



山本春一

〔希望荘 取締役会長〕

ちゅ“ならではの資質は皆さんの宝物であり、働く上での武器にもなります。どうか奄美で育んだ“心“を大切にしてください。

シマの味を忘れられないから、今の私がいる

黒川雅代

「菓子処 ばんじろう 取締役社長」



出身地：奄美大島名瀬
生年月日：昭和 51 年 7 月 29 日（満 38 歳）
現住所：南国料理 奄人
大阪府吹田市寿町 1-3-20
TEL：06-6319-0555

店舗詳細は p85 へ



●これまでの取組み・実績

若いころから「いつかは自分の店をやりたい」と考え、高校時代にはひさ倉や大漁でアルバイトをしていました。高校卒業後は島や大阪の飲食店で和食や洋食の修業をし、2002年6月、26歳の時に大阪の阪急吹田駅から徒歩3分の場所に「南国料理 奄人」をオープンしました。店名には、お店を通して奄美の料理はもちろん奄美の心も伝えたいという思いを込めています。

●生まれたシマに対する思い

店では油ぞうめんや鶏飯などの島料理、奄美の旬のものなど郷土の味を出すよう心がけ、親類を通じて島から素材を送ってもらうこともあります。黒糖焼酎の品ぞろえや店内に流す音楽などを含め、お客さまに奄美の良さを感じていただければと思っています。

●夢への哲学

自分は昔からお店を出したいと思い、島の中で、また外に出て、料理を勉強して念願の店を出しました。コツコツ好きなのようにやることで、夢に近づいていったのかもしれない。

●今後の取り組み、予定など

今まで通りやる!!

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

島のことを忘れず、心の中で島のことを誇りに思っていてください。



●これまでの取組み・実績

東京の短大を卒業後、慈恵医大病院で受け付けなどの仕事をしていましたが、仕事帰りの道にケーキ屋さんがあり、いつもお菓子のいい匂いが漂っていました。実は病院特有の匂いが苦手だった私は、余計にあの甘い香りに惹かれ、ついにお菓子づくりの専門学校へ入学。現在は大阪の泉大野市で菓子処「ばんじろう」を経営しております。

●生まれたシマに対する思い

なぜ菓子づくりに夢中になれたのか。振り返ってみると、シマの「黒砂糖」の味が忘れられなかったからかもしれません。小さい頃から咳や熱が出たり、ノドが痛い時には決まって黒砂糖のかげ（かげん）を作ってもらいました。その品の良い味が忘れられないのです。試作品を作る時も、その黒砂糖が最終的な決め手の味になります。

●夢への哲学

頭に入っていた忘れられない味を追いかけて、追いかけて、今がある。シマの味を忘れられないからこそ、今の私がいるのだと思います。また、今ではだいたいぶ年を重ねましたから、何より「人の和」を大切にしていきます。

●シマを出す子どもたちへのメッセージ

自分はシマを出てから何をしたいのか？ その気持ちを大切にしてほしい。

出身地：奄美大島笠利町赤木名
 生年月日：昭和24年2月20日（満66歳）
 現住所：菓子処「ばんじろう」
 大阪府泉大津市豊中町2-5-8
 TEL：072-531-3039



奄美ふるさと1000人応援団

奄美の旬のものなど郷土の味を出す

久倉進一郎

〔南国料理奄人店主〕

●これまでの取組み・実績

もともと高校教師をしておりましたが、昭和41年に家業を継ぐ形で衣料・繊維メーカー「ラック株式会社」を設立、タテ・ヨコ・ナメに伸縮自在なストレッチ素材を使った衣料製品を製造し、全国の生協や通販会社に自社ブランドの他、OEM、ODM販売をしてきました。また、京都工芸繊維大学との共同研究により「吸湿発熱繊維」を開発し初めて事業化。製品は今でもロングセラーとなっています。

平成8年には名瀬市（現 奄美市）の誘致企業として企業立地協定を締結、(株)アマミファッション研究所での操業を開始し、大島紬の泥染め技法を活かした泥パックインナーや、奄美大島黒糖もろみエキス（保湿成分）配合の化粧品など、奄美の地域資源を活用した高付加価値なものづくりで奄美の産業創出・雇用拡大に貢献できるよう奮闘中です。

●シマとつながるきっかけ

約20年前、事業拡大のため九州や中国本土に工場立地場所を探していた折、偶然、奄美出身の方と知り合いになり、その方の勧めで奄美大島に視察に出かけました。その時に、本場奄美大島紬の複雑で繊細な製造工程や、泥染の技術、亜熱帯植物の多様さを目の当たりにし、「豊かな自然と、奄美で育まれた本場奄美大島紬の技術を活用すれば、高付加価値の商品を開発でき、ブランド化できる。新たなビジネスチャンスがここにはある」と閃いたのです。

この閃きを契機に、名瀬市（現 奄美市）の誘致企業として朝戸集落にて(株)アマミファッション研究所を操業することになりました。現在は奄美観光大使の任も預かり、ものづくりを通して奄美の活性化のお役に立てればと思っております。

●今後の取り組み、予定など

繊維と化粧品事業をより高め、奄美発の商品をどんどん全国へ販売することで雇用を増やしていくこと、そして、大島紬を始めとする「ものづくり」で成長してきた奄美において、ものづくり＝製造業を盛り上げていきたいと考えています。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ
旅はいいへ。



現住所：ラック産業株式会社
奈良県磯城群田原本町八尾507-3
TEL：0744-32-6611
FAX：0744-33-6253
ホームページ：http://www.luc-group.co.jp

自分のファンをたくさん作って

下菌紗奈江

「和風居酒屋花まる 店主」



「ラック株式会社 会長」

吉川卓伸

ものづくり || 製造業を盛り上げていきたい

奄美ふるさと100人応援団

出身地：奄美大島笠利町用安
生年月日：昭和30年5月28日（満59歳）
現住所：花まる
愛知県名古屋市中区丸の内2-8-27
TEL：052-220-7338
e-mail：info@hanamaru.mobi

店舗詳細は p91 へ



●これまでの取組み・実績

平成11年、名古屋市内地下鉄「丸の内」駅から徒歩3分の場所に地場産品応援の店「和風居酒屋 花まる」をオープン。以来、奄美の黒糖酒をお客さまに提供してきました。また、島豚の豚骨煮やカシヤ餅なり味噌などを島から取り寄せて提供しています。油そうめんや豚足は、店で作って提供しております。

●生まれたシマに対する思い

いまだに名古屋の気候（冬の寒さ）に慣れないです。私の体は島での18歳までの食生活や風土が染みついているのか、冬を迎えるたびに思い知らされます。

●シマとつながるきっかけ

店を始めて、島の先輩たちとの出会いがあり、皆さんの島に対する思い、応援の仕方に接して、自分も何か役に立ちたいと強く思いました。

●夢への哲学

人生長く生きている間には失敗もたくさんしてきました。でも必ず解決する方法があると信じています。

●「自分の力を信じ前へ進む」です。

●今後の取り組み、予定など

島の食文化をもっと都会の人たちに知ってもらいたい。そして、店を通してお客さまに一人でも多く奄美ファンになっていただくことです。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

奄美に比べたら都会は広すぎますが、人を恐れず、人間を好きになって、自分のファンをたくさん作ってください。



佐平仁志

〔株〕ユウジンコーポレーション 代表取締役

君たちは世界を目標にしてください



出身地：喜界島喜界町
現住所：ダイニングバー 和
東京都北区赤羽 1-41-6 サクセスプラザ犬飼 2F
TEL：03-3903-2535
e-mail：hidamari@bb.emobile.jp

店舗詳細は p81 へ

〔ダイニングバー 和店主〕

岩崎和典

●これまでの取組み・実績

2011年4月1日、東京・赤羽で焼酎バー『和』をオープンしました。震災直後の開店だけに不安もありましたが、故郷を懐かしむ奄美出身のお客さまや、時に島唄や踊りで盛り上がる店の雰囲気を楽しみたいと足を運んでいただくお客さまにご愛顧いただき、お陰さまで店も丸4年を迎えました。

かつて東京奄美会の青年部副部長をしていたこともあり、店には東京奄美会、埼玉奄美会など県人会の会長、幹事長、青年部長など役員の方々も来て下さいます。また、喜界島の上嘉鉄、手久津久、浦原の三地区出身者で組織される関東嘉手浦会の会合などにも、当店をご利用いただいております。こうしたさまざまな交流を通じて、今後とも奄美群島出身者の憩いの場として、情報交換の場として、そして奄美の発信基地として皆さんに活用していただければと思っています。

●生まれたシマに対する思い

故郷の喜界島にゆかりのある人、頑張ってる若い人は応援したい。

●今後の取り組み、予定など

昨年5月9日、10日の「奄美黒糖焼酎の日」には、黒糖焼酎を一杯300円（一部の特殊な銘柄を除く）、ボトル一本につき10000円引きでご提供させていただきました。今後とも、こうしたイベントも継続して行っていききたいと思います。奄美ふるさと1000人応援団のひとりとして、また奄美観光大使として、奄美のことを知っていただき、好きになっていただく活動に取り組んでいきます。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

島の情報が知りたい人は、ぜひ店に遊びに来てください。話好きのマスター（私）と元カウンセラーでお悩み相談にも乗ってくれるママ、そして懐かしい島料理が待っていますよ。

●これまでの取組み・実績

2003年に株式会社コーポレーションを設立。中華ダイニング「[N]東京」、琉球ダイニング「美ゆら」（2011年より五島列島料理を合わせ「美ゆら伊勢丸」と屋号変更しリニューアルオープン）、日本橋焼餃子」（日本橋本店を含め都内5店舗）、「陳麻家×日本橋焼餃子」のコラボレーション店舗（神保町店）など飲食店経営をしています。また2010年には徳之島の健康食材を世界にお届けする通販会社「(株)長寿食材研究所」を設立。一般社団法人奄美観光物産協会（くーんと奄美）のご協力で、2014年11月にオープンした奄美型アナテナショップ「くーんと奄美」にて、特産品の普及PRや体験交流イベントを通して、奄美群島地域全体の観光・交流を推進していきます。

●生まれたシマに対する思い

徳之島高校卒業後、大阪へ向かうために鹿児島まで船、鹿児島から福岡まで列車、そこから新幹線に乗り継ぎ「遠いな」と思いました。「早くクルマを買って、部屋に電話が欲しい」というのが当時の夢でした。東京の生活も長くなりましたが、不思議と島を出てからの方が島の事を考え、勉強し、郷土に対する想いも強くなっていました。

●夢への哲学

奄美の素晴らしい資源を東京や海外から評価できるように、シマのことがわかるような仕組みができればいいと思います。また、「夢は逃げない。逃げるのは自分である」が私の信条です。

●今後の取り組み、予定など

「くーんと奄美」のアナテナショップを活用して箱崎から成田への導線となり、パニアエアを利用して奄美の観光誘致や地域の物産を掘り起こし、ふるさと納税につながるような商品の開発、12市町が連携できるような場所の提供を東京・日本橋の地につくります。また2020年の東京オリンピックに向けて奄美の長寿食が食べられるヘルシーレストランをオープンさせたいと思います。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

私たちの時代は大和（やまとう）を目標にしました。君たちは世界を目標にしてください。私自身は「反省しても後悔はするな」という奄美の恩師の言葉を肝に銘じ、座右の銘としています。



出身地：徳之島伊仙町
 生年月日：昭和37年1月5日（満53歳）
 現住所：株式会社コーポレーション
 東京都中央区日本橋浜町2-17-8
 KTXビル1F
 TEL：03-3664-3285
 e-mail：sahira@yu-jin.net

奄美ふるさと100人応援団



出身地：奄美大島根瀬部
 生年月日：昭和26年6月8日（満63歳）
 現住所：六調（ろくちょう）
 渋谷区宇田川町33-10 J+Rビル
 Jサイド8F
 TEL：03-3770-0868
 e-mail：ebara@sixbeat.com

店舗詳細は p82 へ

〔株〕6B 代表取締役・六調店主

惠原睦男

●これまでの取組み・実績

東京・渋谷で、黒糖焼酎や奄美の郷土料理などを提供する居酒屋「六調」を経営しており、奄美出身者はもちろん、奄美の食や酒、自然の温かさに惹かれた奄美ファンの方々に囲らんの場としてご利用いただいています。

また、代表を務める(株)6B（ろく・びー）は、ロック、ポップなどのジャンルを問わず音楽の楽しみを伝え、自分の音にこだわるアーティストを育てるべく設立したレコード会社です。そのなかで『奄美レコード』というレーベルを作り、徳之島出身の安田竜馬や、ピンポンズ、ネリヤ☆カナヤなど奄美出身アーティストをプロデュースしてきました。

その他、奄美群島の日本復帰60周年に際しては、「東京奄美会日本復帰60周年記念実行委員会」のメンバーとして舞台監督も務めました。

●生まれたシマに対する思い

経営する店舗では、島料理や黒糖焼酎を通して奄美の食の魅力を、三線やチジン、島唄の演奏を通して奄美の文化を伝えられたらと思います。また『奄美レコード』は、言ってみれば奄美人（シマンちゅ）の奄美人（シマンちゅ）による、奄美人（シマンちゅ）のためのレーベルです。こちらのほうでも、音楽を通して生まれ育ったシマの魅力をひとりでも多くの人に感じていただきたいと思います。

●シマを出る子どもたちへのメッセージ

東京に出てきた時には、六調に気軽に足を運んでください。島出身のお客様も多く、いつでも奄美の風を感じられます。また、音楽の面でも「奄美の若者に夢を」をキーワードに、今の奄美の若者たちが自分たちの島を誇りにし、奄美からもっともっとたくさんの方々のアーティストを輩出できるようにレコード会社を目標に活動中です。夢の実現に奮闘する皆さんをいつでも応援し、サポートしていきます。